

令和2年度事業計画

公益社団法人びわこビジターズビューロー

公益社団法人びわこビジターズビューロー（以下、「ビューロー」という。）では、滋賀県の新たな「観光交流」振興指針「『健康しが』ツーリズムビジョン2022～観光を架け橋に、つなく滋賀、つづく滋賀～」を踏まえ、平成31年3月に新たな中期計画（第2期）（令和元年度～令和4年度）を策定した。

令和2年度は中期計画の2年目として、「滋賀らしさを活かした観光素材のブラッシュアップ」、「受入環境の整備による「滋賀のおもてなし」」、「情報発信の強化による認知度向上」、「持続可能な観光・物産振興の体制構築」の4つの重点テーマのもと、令和4年度末の目標達成に向け、取り組みを加速する。

このため、令和2年度においては、大河ドラマ「麒麟がくる」（令和2年1月～12月）の放送を絶好のチャンスとして捉えるとともに、昨年度大きな盛り上がりを見せた甲賀市信楽が舞台となった連続テレビ小説「スカーレット」（令和元年9月30日～令和2年3月28日）に関する観光誘客の取り組みのレガシーも活かしつつ、観光地域づくりの基盤整備や国内外からの観光誘客、地域資源を活かした物産振興に取り組む。

一方で、令和2年1月から活発化した新型コロナウイルス感染症の全世界的な拡大は、本県の観光業界にも大きな影響を及ぼし、業界全体を取り巻く状況は非常に深刻で、予断を許さない現状にある。

こうした中で、観光庁においては感染症終息後のスピード感を持った対策を練られているが、ビューローとしてもこれらの動きや滋賀県の動向と歩調を合わせ、また観光事業者の皆様と協働しながら、地域観光のかじ取り役として再び元気な「健康しが」を全国に向けて発信することが必要である。

こうした状況に鑑みたと、令和2年度は以下のテーマおよび内容での事業を推進する。

中期計画 重点テーマ1

「滋賀らしさを活かした観光素材のブラッシュアップ」

大河ドラマ「麒麟がくる」の放映を契機とした滋賀県観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」はメイン展開期となる。観光素材のブラッシュアップや魅力あふれるコンテンツの開発を進めるとともに、県内の戦国時代に関する史跡をはじめとして、数々の歴史資源や戦国武将の魅力に焦点をあてたプログラムを実施し、多様なメディアを用いた広報展開により滋賀の戦国の魅力を広く全国に発信することを目的とする。

また、県物産品の認知度向上を目指し、日本橋高島屋（東京）での「大近江展」やあべのハルカス近鉄本店（大阪）での「滋賀・びわ湖展」を継続して実施するとともに、中京圏に対するプロモーションとして、松坂屋名古屋店にて「近江工芸展（仮称）」を実施する。

加えて地産地消促進のため、昨年度、取り組みを始めた近鉄百貨店草津店での常設物産販売についても積極的に展開していく。

中期計画 重点テーマ2

「受入環境の整備による「滋賀のおもてなし」

宿泊・滞在型観光を誘致し、かつ来訪者の再訪意欲を高めていくために、各種受入環境の整備を推進する。

このため、各市町や観光協会、民間事業者等の実施する観光資源の発掘や観光ルートの設定、2次交通アクセスの整備等の地域観光活性化の取り組みに助成するとともに、教育旅行誘致においては、東北3県（宮城・福島・岩手）と連携した教育旅行や、JR米原駅を利用し、なおかつ県内での宿泊や観光地利用を含む教育旅行に対して助成を行う。

コンベンション誘致においては、令和2年5月に大津市を中心として開催が予定されている「第63回日本糖尿病学会年次学術集会」に対し積極的な支援を行い、県内での消費拡大・地域活性化を図るとともに、周辺住民へのPR活動を強化し、「おもてなし」機運の醸成に努める。

訪日外国人観光客へ向け、来県時の満足度を高め、さらなる誘客拡大を図るため、宿泊施設・観光事業者等の「おもてなし力」の向上に努める。

中期計画 重点テーマ3

「情報発信の強化による認知度向上」

雑誌やパンフレットといった紙媒体での露出に加え、「滋賀県観光・物産情報ウェブサイト」のリニューアルを行い、生きた情報を分かりやすく観光客の手元に届けるよう努めるとともに、かつ各種SNSを有効に活用し、観光客の意見も積極的に取り入れた双方向の情報発信も行う。また、全国各地で実施される観光展にも積極的に出展し、滋賀の魅力を広く発信する。

国内の団体に向けた誘客活動としては、教育旅行誘致キャラバンの実施やコンベンションセールスの実施を継続し、さらなる誘致件数増加を目指す。

海外誘客においては有力メディアの招請や、訪日教育旅行の誘致などに積極的に取り組み、外国人観光客のさらなる誘客促進に努める。

また、滞日中の訪日観光客をターゲットに、京都市内で展開している「そこ滋賀プロジェクト」の充実を図るとともに、中国湖南省「滋賀県誘客経済促進センター」を拠点として、中国に向けた積極的な誘客活動に努める。

中期計画 重点テーマ4

「持続可能な観光・物産振興の体制構築」

ビューローでは、滋賀県全域をカバーする日本版DMO法人(地域連携DMO法人)として、会員をはじめ県内市町・観光協会等の多様な関係者と協働しながら、観光地域づくり等の基盤整備に努める。その一環として、滋賀県内各市町観光協会等の職員等に向けて、戦略的な観光事業を展開・牽引できる人材を育成する長期的なセミナーを昨年に引き続き開講する。また県内唯一の新幹線発着駅であるJR米原駅を活用し、観光情報を効果的に発信するとともに、県東北部への新たな人の流れをつくる広域観光を促進するため、関係自治体等の取り組みを支援する。

さらに各種観光データを「見える化」する調査を実施し、観光客の動向などを客観的に把握することで、データに基づいた戦略的で効率的な組織運営・事業運営に向け取り組むとともに、旅行業事業に新たに取り組み、市町および観光振興団体等への支援を活発化させることで、地域と連携した組織基盤の強化に取り組む。

収 支 予 算 書

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	7,800	7,800	0	
事業収益	105,432	108,221	2,789	
受取補助金等	304,903	236,631	68,272	
受取受託金	13,300	8,481	4,819	
雑収益	525	425	100	
経常収益計	431,960	361,558	70,402	
(2) 経常費用				
事業費	411,761	341,637	70,124	
管理費	22,116	20,335	1,781	
経常費用計	433,877	361,972	71,905	
評価損益等調整前当期経常増減額	1,917	414	1,503	
当期経常増減額	1,917	414	1,503	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	-	-	-	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	-	-	-	
当期経常外増減額	-	-	-	
指定正味財産への振替額	-	-	-	
他会計振替額	-	-	-	
当期一般正味財産増減額	1,917	414	1,503	
一般正味財産期首残高	7,304	15,682	8,378	
一般正味財産期末残高	5,387	15,268	9,881	
指定正味財産増減の部				
受取補助金等	-	-	-	
一般正味財産からの振替額	-	-	-	
一般正味財産への振替額	-	-	-	
当期指定正味財産増減額	-	-	-	
指定正味財産期首残高	77,130	77,130	0	
指定正味財産期末残高	77,130	77,130	0	
正味財産期末残高	82,517	92,398	9,881	

収 支 予 算 内 訳 表

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取会費	3,900	0	3,900	-	7,800
事業収益	80,243	20,514	4,675	-	105,432
受取補助金等	279,573	13,551	11,779	-	304,903
受取受託金	13,300	0	0	-	13,300
雑収益	120	0	405	-	525
経常収益計	377,136	34,065	20,759	-	431,960
(2) 経常費用					
事業費	381,327	30,434	0	-	411,761
管理費	0	0	22,116	-	22,116
経常費用計	381,327	30,434	22,116	-	433,877
評価損益等調整前当期経常増減額	4,191	3,631	1,357	-	1,917
当期経常増減額	4,191	3,631	1,357	-	1,917
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	-	-	-	-	-
(2) 経常外費用					
経常外費用計	-	-	-	-	-
当期経常外増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産への振替額	-	-	-	-	-
他会計振替額	1,062	1,062	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,129	2,569	1,357	0	1,917
一般正味財産期首残高	12,521	20,599	774	0	7,304
一般正味財産期末残高	15,650	23,168	2,131	0	5,387
指定正味財産増減の部					0
受取補助金等	-	-	-	-	-
一般正味財産からの振替額	-	-	-	-	-
一般正味財産への振替額	-	-	-	-	-
当期指定正味財産増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産期首残高	77,130	-	-	-	77,130
指定正味財産期末残高	77,130	-	-	-	77,130
正味財産期末残高	61,480	23,168	2,131	-	82,517

資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

なし

令和元年度事業報告

公益社団法人びわこビクターズビューロー

令和元年度は、滋賀県「観光交流」振興指針「『健康しが』ツーリズムビジョン 2022」を踏まえ策定した、新たな中期計画（第2期）のスタートの1年であった。

中期計画の基本目標である「県内の観光・物産に関わる舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、観光地域づくり等の基盤整備や国内外からの誘客に努め、県内での消費拡大・経済活性化を実現する」こと、また、基本方針に掲げる「滋賀らしさを活かして、持続可能な観光をめざす」ことに基づき、4つの重点テーマを設けて各種事業を展開した。

今年度はNHK連続テレビ小説「スカーレット」やNHK大河ドラマ「麒麟がくる」など、本県が舞台となる作品が長期に放映されたことから、その好機を最大限に活かし、観光誘客・物産振興に積極的に取り組んだ。

特に、大河ドラマと関連付けて「戦国」をテーマとした滋賀県観光キャンペーンを過去最大の規模で展開した。県、市町、観光協会、関連団体、事業者などで構成される「滋賀県戦国観光キャンペーン推進協議会」がキャンペーン推進組織として設立され、ビューローは広域的・統一的な事業運営と地域支援に向けて、各地域と連携を図りながら、全体調整、運営管理、広報・プロモーションの役割を担った。

観光入込客数（令和元年速報値）は過去最高を記録した前年より2.7%増加し、延べ約5,395万人となった。また宿泊客数も前年より2.3%増加し、延べ約408万人となった。

こうした中、令和2年3月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業や会議を中止・延期せざるを得ない事態となった。例年3月に高島屋日本橋店で開催している「大近江展」も中止となるなど、観光・物産振興に大きな影響を及ぼした。

重点テーマ1 「滋賀らしさを活かした観光素材のブラッシュアップ」

滋賀ゆかりの戦国武将“明智光秀”が主人公となるNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放映の機会に合わせ、戦国をテーマとした滋賀県観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」を10月22日から展開した。

県内全域を対象として、多様な主体が一丸となって、滋賀ゆかりの戦国武将にまつわる史跡などの歴史資源や武将の人的魅力に焦点をあてた観光素材のブラッシュアップに取り組むとともに、魅力あふれるコンテンツの開発に努めるなど、「近江の戦国」に関する魅力を磨き上げることで観光誘客を強力に推進した。

また、ウェブやSNS、パンフレット、ポスターなどによる広報媒体のほか、情報誌などの民間媒体、交通系媒体、パブリシティ、観光展などを幅広く活用し、ターゲットを意識した効果的かつ広域的な広報・PR活動を積極的に展開した。

物産振興事業では、今年度の新しい物産展として、関西有数の商業施設である「あべのハルカス近鉄本店」において、観光キャンペーンと連動させた「味と匠の祭典 滋賀・びわ湖展」を開催した。

県内物産品の地産地消の促進に向けては、各市町の観光物産協会と協働して、近鉄百貨店草津店において、新たに常設物販コーナー「近江路」を運営し、月替わりで各市町の特産品の販売を行った。同時に、物産販売だけでなく、各市町の観光案内等も実施した。

重点テーマ2 「受入環境の整備による「滋賀のおもてなし」

宿泊・滞在型観光を増やし、来訪者の再訪意欲を高めるために、「おもてなし」の視点から受入環境の整備を図った。

宿泊・滞在型観光の促進に向けて、地域観光活性化支援事業として、各市町、観光協会、広域観光振興協議会等が実施する地域観光活性化に繋がる観光プログラムやPR・プロモーション事業などに補助金を交付した。

誘致支援の充実に向けては、米原駅を利用した県内周遊型教育旅行の造成に対して補助金を交付したほか、MICE担当者向けの現地研修会の開催や、県内で開催されたコンベンションへの助成金の交付などに取り組んだ。

特にコンベンション誘致事業として、令和2年5月に滋賀県で開催予定の「第63回日本糖尿病学会年次学術集会」に向け、周辺住民に対してのPR活動を強化するとともに、今年度開催された仙台大会において滋賀の観光PRコーナーを設置し、滋賀における開催に向けたプロモーションを実施した。

また、訪日外国人観光客の満足度を高め、更なる誘客拡大を図るため、新たに「おもてなし研修」を計3回開催し、県内宿泊施設、観光事業者等の受入環境整備の促進を図った。

物産振興では、県内の関係団体と協力しながら「物産マッチング商談会」を初めて開催し、県産品の販路拡大および魅力度アップを図った。

重点テーマ3 「情報発信の強化による認知度向上」

滋賀県観光情報誌「滋賀たび」や雑誌、パンフレットなどの紙媒体だけでなく、県内全域の観光物産情報を集約し、一元化してウェブで効果的・効率的に旬の情報を発信した。ウェブサイトの運営については、多言語ウェブサイトを運営するほか、モバイル端末への対応やSNSの活用等により利用者の回遊性の向上を図った。

国内においては、マスコミや旅行会社、教育旅行関係、コンベンション関係などに観光物産情報を的確に提供できるように努めた。特に観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」の情報発信としては、市町・観光協会・事業者等と連携し、旅行会社向けの現地研修会や商談会を通じて旅行商品造成に向けた提案を行うなど、積極的な誘客促進に取り組んだ。

教育旅行誘致事業では、誘致キャラバンを首都圏、九州方面、東海地区に向けて計3回実施した。特に、首都圏と比べると送客数の少ない九州方面においては、沖縄に重点を置いて誘致活動を行い、現地の滋賀県人会にも情報収集や送客協力を要請した。

コンベンション誘致事業では、首都圏での合同セールスや合同セミナーに参画し、情報収集やPR活動を行った。また、令和2年5月に滋賀県で開催予定の「第63回日本糖尿病学会年次学術集会」の受入体制構築に向けた連携・情報共有を行った。

海外向けのプロモーションとしては、新たな事業として、6月13日から関西ツーリストインフォメーションセンター京都において旅ナカでの観光案内、情報発信をスタートしたほか、7月18日には、中国湖南省に「滋賀県誘客経済促進センター」を設置し、中国における滋賀観光のプロモーションなどに取り組んだ。

また、ウェブを活用して観光素材や旅行記事広告、体験記などを掲載したほか、影響力の大きいメディアの招聘や観光PR動画の作成、訪日教育旅行誘致などにより、海外に向けた認知度向上ならびに誘客促進を図った。

重点テーマ4 「持続可能な観光・物産振興の体制構築」

地域連携DMOの役割として、会員をはじめ多様な関係者と協働しながら、それぞれの強みを活かした効率的・効果的な県内ネットワークの構築を目指すため、平成30年度まで3年間実施した「観光まちづくり推進事業」に続き、各地域で戦略的な観光事業を展開・牽引できる人材の育成やビッグデータの活用を目的とした「観光人材育成等地域支援事業」を本年度から3年計画で開始した。1年目となる今年度は、「しが観光人材育成アカデミー」を計5回開催し、29名が1年目の課程を修了された。あわせて、一般の方々を対象に県域研修会を2回開催するなど、観光まちづくりに向けた支援に積極的に取り組んだ。

また、会員とビューロー、会員相互の連携強化に向けて、「会員通信メール」を配信したほか、地域懇談会を大津市と彦根市で開催した。

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	122,129,592	76,908,704	45,220,888
未収入金	13,852,826	39,357,129	25,504,303
立替金	0	0	0
前払金	679,349	761,095	81,746
流動資産合計	136,661,767	117,026,928	19,634,839
2 固定資産			
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	24,761,708	24,406,752	354,956
観光開発積立金運用資産	77,130,000	77,130,000	0
物産振興事業会計資産	8,762,725	8,762,725	0
特定資産合計	110,654,433	110,299,477	354,956
(3) その他固定資産			
差入保証金	2,822,700	2,776,800	45,900
その他固定資産合計	2,822,700	2,776,800	45,900
固定資産合計	113,477,133	113,076,277	400,856
資産合計	250,138,900	230,103,205	20,035,695
負債の部			
1 流動負債			
未払金	127,166,810	111,609,630	15,557,180
未払法人税等	72,200	72,200	0
未払消費税等	461,000	0	461,000
前受金	1,021,380	429,504	591,876
預り金	1,644,536	2,430,439	785,903
賞与引当金	6,793,676	6,720,364	73,312
流動負債合計	137,159,602	121,262,137	15,897,465
2 固定負債			
退職給付引当金	41,064,123	24,406,752	16,657,371
固定負債合計	41,064,123	24,406,752	16,657,371
負債合計	178,223,725	145,668,889	32,554,836
正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	77,130,000	77,130,000	0
(うち特定資産への充当額)	(77,130,000)	(77,130,000)	0
2 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	5,214,825	7,304,316	12,519,141
(うち特定資産への充当額)	(8,762,725)	(8,762,725)	0
正味財産合計	71,915,175	84,434,316	12,519,141
負債及び正味財産合計	250,138,900	230,103,205	20,035,695

正味財産増減計算書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	7,770,000	7,710,000	60,000
事業収益	102,396,525	104,911,927	2,515,402
受取補助金等	236,570,778	253,258,354	16,687,576
受取受託金	8,480,400	5,713,750	2,766,650
雑収益	419,547	713,981	294,434
経常収益計	355,637,250	372,308,012	16,670,762
(2) 経常費用			
事業費	347,947,440	358,237,116	10,289,676
管理費	20,162,151	22,506,391	2,344,240
経常費用計	368,109,591	380,743,507	12,633,916
評価損益等調整前当期経常増減額	12,472,341	8,435,495	4,036,846
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	12,472,341	8,435,495	4,036,846
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	25,400	129,664	-
(2) 経常外費用			
経常外費用計	72,200	72,200	-
当期経常外増減額	46,800	57,464	-
当期一般正味財産増減額	12,519,141	8,378,031	4,141,110
一般正味財産期首残高	7,304,316	15,682,347	8,378,031
一般正味財産期末残高	5,214,825	7,304,316	12,519,141
指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	-	-	-
指定正味財産期首残高	77,130,000	77,130,000	-
指定正味財産期末残高	77,130,000	77,130,000	-
正味財産期末残高	71,915,175	84,434,316	12,519,141

正味財産増減計算書内訳表

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内部取 引消去	合 計
一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取会費	3,885,000	0	3,885,000	-	7,770,000
事業収益	81,400,474	19,037,377	1,958,674	-	102,396,525
受取補助金等	213,909,995	12,264,423	10,396,360	-	236,570,778
受取受託金	8,480,400	0	0	-	8,480,400
雑収益	213,564	0	205,983	-	419,547
経常収益計	307,889,433	31,301,800	16,446,017	-	355,637,250
(2) 経常費用					
事業費	317,021,785	30,925,655	0	-	347,947,440
管理費	0	0	20,162,151	-	20,162,151
経常費用計	317,021,785	30,925,655	20,162,151	-	368,109,591
評価損益等調整前当期経常増減額	9,132,352	376,145	3,716,134	-	12,472,341
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	9,132,352	376,145	3,716,134	-	12,472,341
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	25,400	-	25,400
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	72,200	-	72,200
当期経常外増減額	0	0	46,800	-	46,800
指定正味財産への振替額	-	-	-	-	-
他会計振替額	0	0	0	-	0
当期一般正味財産増減額	9,132,352	376,145	3,762,934	-	12,519,141
一般正味財産期首残高	12,520,720	20,598,834	773,798	-	7,304,316
一般正味財産期末残高	21,653,072	20,974,979	4,536,732	-	5,214,825
指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産期首残高	77,130,000	-	-	-	77,130,000
指定正味財産期末残高	77,130,000	-	-	-	77,130,000
正味財産期末残高	55,476,928	20,974,979	4,536,732	-	71,915,175